

国土学事始め



大石久和さん

国土技術研究センター理事長

国土への働きかけが、国土からの恵みをもたらす。自然のままの国土には、穀物の実る耕作地も安心して暮らせる都市も、初めから備わってはいません。豊かに広がる水田風景は、豊葦原瑞穂の国と呼ばれるこの国の原風景ですが、これは私たち日本人の労働の成果なのです。

ひと昔前は、大都市で暮ら

す人は少なかったのですが、大きな都市が人口を増大させ、人口の少ない町の人口が減り続ける現象が顕著になってきました。

都市生活が成り立つため、都市には地上や地下に、驚くような多くの装置群を整備し、大都市ほど大規模な装置を用意して、私たちを支えて

未来へ贈り物を用意する努力を

います。地下には地下鉄、上下水道、電話線、ガス管、電力線などが埋設され、東京や大阪には、これらを束ねた共同溝を設置。各事業者が単独で道路を掘り返さなくてもいいようになっています。

現在も整備は進められていますが、ほとんどは過去の日本人から、今の私たちへの贈り物です。昔の人が提供して

くれた施設を多く持っている都市ほど、より充実した、より安く利用できる施設が整っています。

たとえば東京の地下鉄は、どの都市より安い料金で利用できます。これは、昭和の初めから銀座線などが建設され、その後何度も大きなインフレをくぐり抜けた結果、今

日から見ると、非常に安い建設費で整備できたからです。京都・名古屋・札幌や仙台は、ネットワークが充実してないのに料金が高い、というのは、最近建設したため、安い価格で出来た資産がなく

「過去からのサービス」が不足しているからです。これが堺屋太一氏のいう「過去からの補助金」です。

銀座線の建造費が安いといっても、当時としては高価だったに違いありません。昔の人が他の支出を削り、地下鉄への支出を優先してくれたから、今の都民は仙台市民より効率的なネットワークを、安価に手にできているのです。

地下鉄も、鉄道も道路も港湾も空港も河川も、食事もままならなかった時代の日本人から、今の日本人への贈り物です。私たちは現在の生活を優先するあまり、未来の日本人への贈り物を用意する努力を怠っていないでしょうか。少子化し高齢化する時代の後輩たちに、安全で効率的に動ける環境を整えておくことは、国際競争力の維持の視点からも、きわめて大切なのに……と、心配しているのです。